

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東大阪大学
設置者名	学校法人村上学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
こども学部	アジアこども学科	夜・通信		10	6	16	13	
	こども学科	夜・通信			6	16	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/zitsumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東大阪大学
設置者名	学校法人村上学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/hojinrizi.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人理事	H27.7.4 ~ R2.7.3	組織運営体制への チェック機能
非常勤	無職	H27.7.4 ~ R2.7.3	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東大阪大学
設置者名	学校法人村上学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)はテーマ(目的・狙い)、概要、授業終了時における達成課題(到達目標)、授業計画(各回のテーマ、内容、授業方法など15回分)準備学習、単位認定の方法及び基準、受講生へのメッセージ、テキスト・参考文献から成り立っている。これらにつき具体的かつ分かりやすい記述がなされていることが求められている。 シラバスへの入力は例年3月中旬から下旬にかけて入力され、履修登録前の4月上旬に公開される。	
授業計画書の公表方法	https://star.higashiosaka.ac.jp
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学修結果の評価はシラバスに記載されているとおりに行われる。方法は筆記試験、小テスト、レポートなど各科目担当者が、科目の性質に応じ最も適切な方法で、各学期末に行う。口頭発表や授業への参加度も成績評価の一養子になっている科目もある。それと同時に授業への出席も極めて重視しており、欠席が目立つようになった学生に対しては、各教員が早期に指導を行っている。欠席、遅刻、早退を合わせ実質的に全授業時間の3分の1以上、授業への出席がない場合には欠格として定期試験等の受験資格を与えていない。これらは配布しているキャンパスガイドに記載され、学生への周知を図っている。 成績評価はS(90~100) A(80~89) B(70~79) C(60~69) F(0~59)とし、F評価を不合格としている。また一部の科目(「大学で学ぶI・II」「社会人になるにはI・II」など)は合格(P)か不合格(F)の評価形式をとっている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

指標の算出方法：成績評価を点数化（S評価:4、A評価:3、B評価:2、C評価:1 F評価:0）し、その合計点数を履修科目総数で割ることで平均値を算出する。なお、合否のみの科目（セミナーや卒業研究等）は対象外としている。

下記の計算式により1科目あたりの成績平均を算出している。この算出結果を資料として活用し、学園長賞、学長賞及び本学独自の奨学金制度などの選考に用います。また、成績平均値の低い学生へはアドバイザーやゼミ担当による今後の修学指導の資料としています。

$$\frac{(S \text{ 評価数} \times 4.0) + (A \text{ 評価数} \times 3.0) + (B \text{ 評価数} \times 2.0) + (C \text{ 評価数} \times 1.0)}{\text{履修科目総数}}$$

履修科目総数

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/seisekihyoka.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○アジアこども学科

1 こども学の専門知識をグローバル的な視野で追及すると同時に、世界に通用するビジネス専門知識を学び、社会及び市場変化を的確に把握し、かつ課題解決に施策を提案できる複合的人材となる。

2 アジア連携をモットーに、国境を越える多面的な交流により、アジア社会の多様な価値観を学びながら、アジアの子ども、アジアの中の日本に関する諸問題と諸知識を探究・習得し、アジアの社会、文化、歴史、経済、環境などに強い関心を持ち、かつ異文化が理解できる世界観を有する人材となる。

3 幅広い教養知識の習得と徹底した語学指導により、企業及び国際社会を舞台に高度な実践的語学力で活躍できる国際性豊かな人材となる。

上記に掲げた目標の達成を目指し、学科の理念に沿って編成された幅広い教養知識、経済経営学関連の講義、演習等を学生に履修させ、また学生の国際感覚やコミュニケーション能力を養うために海外研修を必修科目に定めている。学修の集大成としての卒業論文に関しては、担当教員をはじめ、複数の教員の指導の下に作成したものを、主査・副査による口頭試問を経て可否を判断し、合格した学生に対して卒業を認定する。

○こども学科

1 人類はもとより生きとし生けるものに対し、優しい気持ちで接する心を持ち、生きているものを大切にすることをもち、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人となる。

2 社会人として必要な教養と子どもに関する専門知識及び技能を習得し、広い視野で考える力、主体的に課題を見つける力を身に付け、子どもの立場に立って考え、発言し、社会に貢献できる人となる。

3 自分が健全であることを喜び、感謝するとともに、相手の立場になって考えることを教え、人の痛みがわかる人となる。

学科スローガン「育もう いのちを見つめる やさしさを」を必修科目の軸に据え、それらを通して「子どもの命」を支える専門職性を学ぶ。特に、「大学で学ぶ」「キャリアを考える」といった科目では、人間の生・生活を核としながら子育て・教育・社会の課題や問題を学生が掘り下げて考える活動をすることで、子どもの命を守る専門職意識と人間社会の基盤を考えるリベラルアーツを身につける。これに並行して、宿泊研修、科目履修、学外実習、海外留学のそれぞれにおいては、現場を意識した学びを経験し、子ども・保護者・発達援助者の生活世界を知ることによって、考察を深める。

「こども学」をはじめ保育・教育・福祉の科目においては、子どもについての専門知識、子どもを守り・支えるための教養を身につける。同時に、子どもを取り巻く社会状況について深く理解し、胎児期から老年期に至るまでの過程における子ども期の重要性をとらえる。「卒業研究」においては、ゼミナール担当教員だけでなく、学科教員のサポート体制を敷き、全ゼミ合同での中間発表・最終発表会を行う。複数の専門領域から助言を受けながら視野を広め、問題関心を深く掘り下げる。

保育職・教育職を目指す学生が履修する「実習基礎セミナー」をはじめ、学外実習や実習報告会などの振り返りを通して、他者と関わる自分を意識する。また、教職カルテを通して、各科目における修学状況の評価を行い専門職として必要な資質を見つめる機会を設定している。つまり、実習で出会う他者との具体的な関わりを通じて、対人援助職としての自己理解を深め、当事者の立場に立った支援や手立てを講じられる力を身につける。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東大阪大学
設置者名	学校法人村上学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/bs_hojin.pdf
収支計算書又は損益計算書	http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/shikin.pdf
財産目録	http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/zaisan.pdf
事業報告書	http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/jigyoudt_houkoku.pdf
監事による監査報告(書)	http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/hokoku.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/hyouka_d_self-h28.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/hyouka_d_jiheeh-h28.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 こども学部アジアこども学科
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.higashiosaka.ac.jp/faculty/asia/guidance/) (概要) アジアこども学科」では、経済成長著しい中国やインド、タイなど、アジアを中心とした視点からこどもを取り巻くさまざまな問題を探究します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf) (概要) 1 こども学の専門知識をグローバルな視野で追及すると同時に、世界に通用するビジネス専門知識を学び、社会及び市場変化を的確に把握し、かつ課題解決に施策を提案できる複合的人材となる。 2 アジア連携をモットーに、国境を越える多面的な交流により、アジア社会の多様な価値観を学びながら、アジアの子ども、アジアの中の日本に関する諸問題と諸知識を探究・習得し、アジアの社会、文化、歴史、経済、環境などに強い関心を持ち、かつ異文化が理解できる世界観を有する人となる。 3 幅広い教養知識の習得と徹底した語学指導により、企業及び国際社会を舞台に高度な実践的語学力で活躍できる国際性豊かな人となる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf) (概要) 1. 広範で多様な基礎知識と子どもを学ぶために欠かせない豊かな人間性を養うため、人文・社会・自然・総合・外国語・保体科目に区分した全学に共通する教養科目を設置する。 2. こども学の専門知識に基づいてアジア社会の価値観《国際文化》を学びながら世界に通用するビジネス専門知識《経営・経済》と卓越したコミュニケーション能力《語学力》を養い、必要な専門知識を習得するため、必修・基礎選択・3,4年次専修科目に区分した専門科目を設置する
入学者の受入れに関する方針 (公表方法： http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf) (概要) 日本だけでなく、アジア、とりわけ東アジアの国々及び地域の子どものめぐる諸問題に意欲的に取り組める人、知的関心と豊かな情緒によるコミュニケーション能力を持つ人、事象や問題点を正確にとらえて意味づける力を持ち、筋道だった考察と表現ができる人を望みます。

学部等名 こども学部こども学科
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.higashiosaka.ac.jp/faculty/childhood/guidance/)</p>
<p>(概要) 核家族化や女性の社会進出が進む現在、子どもをめぐる環境は大きく変化しています。全国で初めて開学した本学のこども学部こども学科では、こうした子どもをとりまく問題を大人の視点からのみ捉えるのではなく、子どもの視点にも立って考える学問に取り組みます。 教育学や発達心理学など、これまで複数の領域に細分化されていた子どもに関する学問を「こども学」としてトータルに学ぶことで、幅広い見識と奥行きのある専門知識を備えた“子どもに関するスペシャリスト”を育成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf)</p>
<p>(概要) 1 人類はもとより生きとし生けるものに対し、優しい気持ちで接する心を持ち、生きていくものを大切にすることをもち、次代を担う子どもの健全育成に貢献できる人となる。 2 社会人として必要な教養と子どもに関する専門知識及び技能を習得し、広い視野で考える力、主体的に課題を見つける力を身に付け、子どもの立場に立って考え、発言し、社会に貢献できる人となる。 3 自分が健全であることを喜び、感謝するとともに、相手の立場になって考えることを教え、人の痛みがわかる人となる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf)</p>
<p>(概要) 1. 広範で多様な基礎知識と子どもを学ぶために欠かせない豊かな人間性を養うため、人文・社会・自然・総合・外国語・保体科目に区分した全学に共通する教養科目を設置する。 2. こども学を修めるにあたり必要な専門知識及び技能を習得するため、必修・基礎選択・選択・3,4年次専修科目に区分した専門科目を設置する。 3. こども学を修めるとともに、教育者としての免許状及び保育士証を取得するため、自由選択科目を設置する</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2019info/policy.pdf)</p>
<p>(概要) 子どもをめぐる諸問題に意欲的に取り組める人、知的関心と豊かな情緒によるコミュニケーション能力を持つ人、事象や問題点を正確にとらえて意味づける力を持ち、筋道だった考察と表現ができる人を望みます。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2017info/kihonsoshiki_1006.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
こども学部	—	8人	5人	11人	0人	0人	24人
	—	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		20人					21人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.higashiosaka.ac.jp/about/teacher/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども学部	85人	64人	75%	360人	272人	75%	10人	10人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	85人	64人	75%	360人	272人	75%	10人	10人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
こども学部	46人 (100%)	0人 (0%)	42人 (91%)	4人 (9%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	46人 (100%)	0人 (0%)	42人 (91%)	4人 (9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>授業計画（シラバス）はテーマ（目的・狙い）、概要、授業終了時における達成課題（到達目標）、授業計画（各回のテーマ、内容、授業方法など 15 回分）準備学習、単位認定の方法及び基準、受講生へのメッセージ、テキスト・参考文献から成り立っている。これらにつき具体的かつ分かりやすい記述がなされていることが求められている。</p> <p>シラバスへの入力例年 3 月中旬から下旬にかけて入力され、履修登録前の 4 月上旬に公開される。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>学修結果の評価はシラバスに記載されているとおりに行われる。方法は筆記試験、小テスト、レポートなど各科目担当者が、科目の性質に応じ最も適切な方法で、各学期末に行う。口頭発表や授業への参加度も成績評価の一養子になっている科目もある。それと同時に授業への出席も極めて重視しており、欠席が目立つようになった学生に対しては、各教員が早期に指導を行っている。欠席、遅刻、早退を合わせ実質的に全授業時間の 3 分の 1 以上、授業への出席がない場合には欠格として定期試験等の受験資格を与えていない。これらは配布しているキャンパスガイドに記載され、学生への周知を図っている。</p> <p>成績評価は S (90~100) A (80~89) B (70~79) C (60~69) F (0~59) とし、F 評価を不合格としている。また一部の科目（「大学で学ぶ I・II」「社会人になるには I・II」など）は合格 (P) か不合格 (F) の評価形式をとっている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
こども学部	アジアこども学科	124 単位	有・無	単位
	こども学科	124 単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.higashiosaka.ac.jp/pdf/2018info/setsubi.pdf>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
こども学部	アジアこども学科	930,000 円	280,000 円	271,600 円	実験実習料 (80000) 施設設備費 (180000) 教育後援会費 (8000) 学生会費 (3600)
	こども学科	930,000 円	280,000 円	191,600 円	施設設備費 (180000) 教育後援会費 (8000) 学生会費 (3600)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>2号館は、音楽棟として、大学生と短期大学部生がピアノの練習を目的として利用できる施設である。練習室は60室（アップライトピアノ）あり、全室防音・冷暖房完備となっている。平日の9時から17時まで無料で利用でき、音楽担当教員の研究室があり、ピアノ室管理のため事務職員が1名常駐している。</p> <p>図書館はキャンパスの4号館に位置し、教員の教育と研究活動及び学生の勉学を支援し、設置学部・学科に即して各種資料の収集と整理を行っている。図書種別では、学部学科設置上の性格から、教育、特に保育・初等教育関連のものを所蔵し、栄養、福祉関連の書物がそれに続いてきたが、2011年4月にアジアこども学科の開設を迎え、現在に至るまで人文社会関連文献・アジア歴史資料の収集にも力を入れている。</p> <p>すべて学生に対してメールアドレスが発行され、学内外からの送受信が可能であり、学生に対して発行されたメールアドレスについては、学生は卒業後も、引き続き利用できるサービスとして運用している。学生の学内持ち込みパソコンは、9号館、8号館、図書館及び学生寮では無線LANを利用することができる。また平成28(2016)年度から貸出し用ノートパソコン10台を購入し、学生に貸し出ししている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>専任職員3名、担当教員数名の充実したサポート体制をもつキャリアサポートセンターは、進路に関する豊富な情報を提供します。</p> <p>企業年鑑をはじめ就職先に関するさまざまな資料、過去の就職試験や面接等のデータを豊富に収集、蓄積整理しており、必要な情報がすぐに引き出せます。</p> <p>教員や職員を通じて広げてきたネットワークや卒業生を送り出してきた実績などから、学生たちの多様なニーズに応えられる就職先の開拓を進めています。在学時に取得した免許・資格や学生一人ひとりの特性を生かして自分らしく輝ける場所、自分の能力を最も発揮できる場所への就職をサポートしています。</p> <p>また、編入学を希望する学生についても、東大阪大学をはじめ指定校となっている4年制大学への編入をサポート。その他の大学、専門学校への編入・進学希望者についても入試の情報の提供などを行っています。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>本学では保健センターを設置し、学生ならびに教職員の心身の健康管理・維持増進に努めています。保健センターでは、その課題・目的の達成に向けて、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっています。</p> <p>保健室では、学内における学生および教職員の身体面の健康保持・増進に関する相談に応じています。また、学内で突然の傷病などが発生した場合、応急処置を講ずるとともに、適宜安静・休養できる設備を完備しています。さらに、症状に応じて関係する他 部署や外部の医療機関と連携しながら、協働支援にも努めています。</p>

学生相談室では、カウンセラーが学校内、家族内の対人トラブルはもとより、自己の性格・友人関係、実習・進路に伴う就学に関する相談、さらに性の問題や心身障害等の相談など様々な「悩み」に応じています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.higashiosaka.ac.jp/information/>